

# UEDA 音楽療法センターRitomico ー開設から現在までー

高橋 和奈枝

長野医療衛生専門学校 音楽療法士学科

## はじめに

長野医療衛生専門学校音楽療法士学科は 2002 年 4 月に開設され、2022 年 4 月には 20 周年を迎えた。2001 年 4 月に日本音楽療法学会が設立され、2002 年 3 月 10 日には、1996 年に発表された「カリキュラムガイドライン」適用の音楽療法コース卒業生を対象にした第 1 回日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）試験が実施された。本校は 3 年制であるため、2005 年 1 月 16 日に実施された第 4 回音楽療法学会認定音楽療法士（補）試験から合格者を輩出し、近年、高い受験率と合格率を維持しながら多くの音楽療法士を育成しつづけている。

日本音楽療法学会認定音楽療法士資格試験受験認定校は 2024 年 3 月現在で 19 校であり、そのうち専門学校は 4 校、信越・北陸地域では本校 1 校となる。学会の設立以来、数多くの音楽療法士を全国に送り出してきた信越・北陸地域の唯一の認定校である本校ができる地域貢献や音楽療法の情報発信の方法を学科としても模索しはじめた。

## 1 UEDA 音楽療法センターRitomico 開設

「このあたりに音楽療法を受けられる場所はありませんか」

発端は、とある保護者の一言であった。筆者は 2015 年より上田市の児童発達支援センターに非常勤音楽療法士として勤務しており、未就学の発達障害のある子どもの音楽療法に従事してきた。同センターは本校の実習先でもあり、センターに通

う子どもたちは音楽療法に触れる機会が必然と多くなる。センター卒業後はそれぞれ地域の小学校や特別支援学校に入学するが、音楽をその子なりのペースで自由に楽しめる場がありそうでないという内容の相談であった。通院でもなく、技術を高めるための習い事でもなく、音楽をその子なりのペースで自由に楽しめる場について調査を行ったが、上田市内では、音楽療法を定期的に開催する放課後等デイサービスや、音楽療法の個人教室などに関する情報が得られなかった。音楽療法士学科では 2022 年 12 月より本校の常磐城校舎を利用し、場の開拓に向けて試行を重ねることとなり、職員 2 名と小学生 1 名と中学生 1 名にモニターとして音楽療法体験を依頼した（表 1）。

表 1 試行期間中の実績

①職員による音楽療法体験（12 月）2 名×1 回
②対象児 A 小学校 2 年生（3 月～8 月）16 回
③対象児 B 中学校 1 年生（4 月～8 月）11 回

モニター体験の参加者が有償となった後も継続を希望したことや、モニター参加者の保護者からの紹介で試行期間中に新たな体験の問い合わせ等もあったことから、参加者層の幅の広さや、継続的なニーズが伺える結果となり、有償での始動に向けて準備を開始した。

2023 年 9 月、正式名称を「UEDA 音楽療法センターRitomico」とし開設に至った。

## 2 概要

### 1) 目的と機能

UEDA 音楽療法センターRitomico の目的と機能を以下の6点とした。

①地域の社会資源として、継続して音楽療法を受けられる場を提供する。

②音楽療法を一般の方が広く体験できる機会を創出する。

③地域の音楽療法士や卒業生が資格取得後も学べる機会と場を提供する。

④在校生等が見学・補助などを通して学べる機会と場を提供する。

⑤教職員の専門性向上や研究活動、授業内容の充実を図る。

⑥音楽療法に関する情報発信を行う。

### 2) 対象

主な対象は、①音楽療法を必要とする方（子どもから高齢者まで）、②スーパービジョンを必要とする音楽療法士（一般・卒業生）とした。

### 3) 時間

頻度は週1回もしくは隔週1回（面談時に希望を聞きスケジュールを組む）。1回30分で曜日・時間は相談に応ずる、予約制。

### 4) 場所

UEDA 音楽療法センターRitomico(常磐城校舎) 1階教室を使用する。

### 5) 業務内容

業務内容は音楽療法セッション、音楽療法士のためのスーパービジョン、センター管理、情報発信など。料金は1クール8回分のセッションチケットと振り返りの1回分で8000円(1000円/1回、振り返りは無料)。保護者には教育・研究の一環として動画撮影・使用の協力をお願いする。

## 3 実施報告

先の目的と機能に挙げた6点について、実績を評価しながら、実施報告を行う。

### 1) 継続して音楽療法を受けられる場

開設から2024年3月までの参加者について参加時期と回数について概観する(表2)。

表2 参加者の参加時期と参加回数(体験除く)

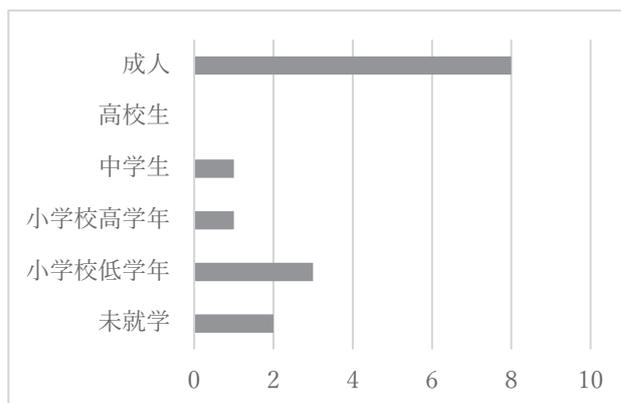
対象児 A	2 クール終	2023.9~2024.3	16 回
対象児 B	3 クール目	2023.9~2024.3	20 回
対象児 C	3 クール目	2023.9~2024.3	18 回
対象児 D	2 クール目	2023.10~2024.3	9 回
対象児 E	2 クール目	2023.11~2024.3	9 回
対象児 F	2 クール終	2023.11~2024.3	8 回
対象次 G	1 クール目	2024.2~2024.3	3 回

2024年3月現在、継続的に7名の児童が通っており、週1回もしくは隔週1回のペースを維持できている。1クールを8回とし、クールの振り返りにて継続希望の有無を伺っているが、現時点では全員が次クールに繋がっており、継続して音楽療法を受けられる場の機能は果たせていると考える。

### 2) 音楽療法を一般の方が広く体験できる機会

開設から2024年3月までの参加者について年齢層をグラフで示す(グラフ1)。

グラフ1 参加者の年齢層



一般の成人に対してはグループセッションや個人セッションを行った。継続的なものではないが、最も多くの人数を占めている。次に発達障害などのある小学生のニーズが高い。未就学児童や中学生のニーズもわずかにあり、高校生のニーズは現時点ではない。音楽療法は対象の幅が広く、この半年の間にも様々な年齢層からの参加があったと言える。しかし、一日に受け入れられる人数に限りがあり、継続参加者も多いことから、「一般の方が広く体験」できる場とはなっていない。この機能を果たすためには音楽療法士の増員が不可欠であり、それによって、対象者の人数も幅広い年齢層の参加も達成できると考える。

### 3) 地域の音楽療法士や卒業生が学べる機会と場

音楽療法士は、就職後は一人でセッションを行うことが多く、職場で音楽療法を学べる機会を得ることは稀である。Ritomico では、保護者に了解を得て見学実習を受け入れることで、地域の音楽療法士や卒業生が学べる機会と場を提供している。開設から 2024 年 3 月までに 3 名の卒業生が見学参加をした。また 1 名の地域の音楽療法士が学びとしてのセッション体験を行った。いずれも数は多くないが、地域の音楽療法士や卒業生が学べる機会と場の提供の第一歩となったと考える。

### 4) 在校生等が学べる機会と場

近年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実習を一度に受けられる人数に制限があったり、感染状況によって実習の日数が増減したりするなど現場でじゅうぶんに学べない時期が続いた。アフターコロナの現在ですら一部制限の残る現場もある。Ritomico では、保護者の了解を得たうえで、在校生の見学参加を受け入れている。開設から 2024 年 3 月までには 1 名の在校生が卒業研究の一環として見学参加を希望し、2 回の実習を受け入れた。通常のセッション見学に加え、在校生に対しては自身の活動の場面も設け、実践的に学べる

機会と場を提供できたと考える。今後、さらに在校生のニーズに応えられるような制度を整えたい。また、探求のテーマの一環として高校生 1 名の見学参加を受け入れた。今後も様々なニーズに対応していきたい。

### 5) 教職員の専門性向上、研究活動、授業の充実

継続的なセッションを行うことで、壁にぶつかることも多々ある。関連図書を読んだり、研究会などに参加したりして積極的に学ぶことで教職員としての専門性の向上に繋がられたと考える。また、セッションが 1 クール終了するごとに動画のまとめを行い、保護者にセッションの意味を伝えたり、意見を伺ったりしている。そうすることで研究的な視点が身につくと考える。また、教育利用の許可を得られた動画は、授業の充実と音楽療法士育成のための教材として使用している。この 3 つの機能を果たすことで、教職員、学生の双方の学びの質を高めると考える。

### 6) 音楽療法に関する情報発信

UEDA 音楽療法センターとしての情報発信は、まだほぼ実現できていないと言ってよい。今後の課題としたいが、今年度以上に①～⑤までの実績を地道に積み上げつつ、音楽療法士の増員、環境整備などを行い、センターとしての活動を軌道に乗せていく必要がある。それらを実現しながら、今後情報発信に繋がっていききたい。

センター立ち上げに関わったすべての方々、音楽療法参加者や保護者の方々に感謝を込めて、今後も臨床と実践報告に努めたい。この実践報告に申告すべき利益相反はない。

### 文献

- [1] 日本音楽療法学会：日本音楽療法学会ニュース. 第 3 号. 2002
- [2] 日本音楽療法学会：日本音楽療法学会ニュース. 第 9 号. 2005